【知事臨時記者会見 5 月 5 日】

知事／こんにちは。
県民にとって大変厳しい状況だと思うが、「チーム佐賀」「オール佐賀」で難局を乗り越えたい。
政府の緊急事態宣言が、全国を対象に 5 月 31 日まで延長された。
県では休業要請を 5 月 6 日までとしていたので、今後の緊急事態措置の内容を説明する。県内は感染が続いているが、引き続き油断せず緊張感をもって取り組んでいく。

これまでの経緯
7 都道府県は 4 月 7 日に、16 日には全国に緊急事態宣言が出された。県では 13 都府県に続き、いち早く休業要請し、GW 中のめどを目指してきた。休業要請に協力してもらい感謝する。
政府の基本的対処方針は、特定警戒都道府県の 13 都道府県と、佐賀を含む 34 県とで取り扱いが違う。

政府の基本的対処方針の概要
福岡など特定警戒地域と、佐賀などそれ以外の地域。佐賀など 34 県は、
・外出自粛については、旅行など県をまたいだ移動を避ける。また、接待を伴う飲食店以外は 3 密を避け容認。
・休業要請は、各県が実情に応じて使用制限を要請。
・イベントは、少人数に限り感染防止策を条件に容認。
・職場出勤は、テレワーク推進、時差出勤の励行。
・休校は、地域の状況に応じ、段階的に教育活動を再開。

緊急事態宣言延長を受けた佐賀県の方針
一瞬で変わることを意識し、感染拡大防止を第一としつつ、社会経済活動を段階的に再開する。そのための3つの方針。
・「自粛要請から自制へ」は、買い物のキャッシュレス化など、感染拡大防止に「新しい生活様式」（自制型）を取り入れていく。どういうものか、皆さんとともに考えていく。
・「クラスター発生阻止」現在の発生件数は 45 件。初めは、県外から持ち込まれた単発のもの。次に、夜の街のクラスターが発生。一度に件数が増え、その経過を追う作業が困難に。現在は、黄色の 4 件を前の事案との関連を調査中。佐賀県は、クラスターが医療機関と介護機関に起きていない。ここでクラスターが起きるのを恐れている。介護施設は、職員の意識が大切。意識向上のために、医学関係者と協力していきたい。
・「状況に応じ、臨機応変に対応する」状況が変われば、再度の外出自粛要請や休業要請を講じる。

休業要請は 5 月 6 日で終了。休業要請は 5 月 7 日から解除。ただし、接待を伴う飲食店は除く。
解除対象の飲食店は、営業に際して、
・3密を徹底的に避け、換気や人と人との距離を取るなど、感染対策を徹底する。
・業種や施設の種別ごとにガイドラインを作るなど、自主的に感染防止対策をする。

5 月 20 日まで休業要請する店舗
接待を伴う飲食店は、呼び方がさまざま。イラストのように、ホストやホステスが横につくお店のこと。通常のバーは、カウンターの中でマスクをしてもらうとよい。休業した場合、さらに1店舗 15 万円の休業支援金を出す。

パチンコ店
佐賀県遊技業協同組合と真摯に話し合い合意した。
出入り口を開放し換気する。出入り口に消毒液を設置。2台に1台は電源を切る間引き営業。客が入れ替わるたびに台を消毒。客のマスク着用義務。集客目的の宣伝を自粛。
県外客への対応は、以下の3つのどれかを実施するよう組合が指導。
①駐車場で県外ナンバーを入れない。
②店舗入口で、身分証を確認し、県外の人は入れない。
③ホール会員以外は入れない。新規登録者は、身分証で県内在住を確認する。①～③のいずれかを実施し、県が抜き打ちで確認する。組合とこれを合意したので、5月7日から再開。

イベント再開について
県内イベントは、人数を絞ったうえで、以下の条件を満たすこと。
・3密回避の徹底。換気、人との間隔をあける。ひとつずつ席を空ける。
・感染防止対策を講じる。マスク着用、消毒設備の設置。
・大声での発声、歌唱や声援、近接距離での会話が想定されないこと。

県有施設は、5月 11 日（月）から再開。吉野ヶ里歴史公園、県立図書館、博物館・美術館、県営キャンプ場、県営少年自然の家など。道の駅や民間のキャンプ場は7日から。それぞれの遊具の禁止措置は、各団体で判断。

学校について
県立学校は5月 14 日から再開。学校は子供にとって大切な成長の場。人との交流で学ぶのが子供たち。長期間の休校で、心身がむしばまれていくのではないかと危惧している。新型コロナウイルス感染症のリスクは、ゼロにはならない。学校現場は、対策を徹底して再開したい。
感染防止策の徹底、3 密を避けること。窓を開放し、手洗い、マスク着用。マスクをわすれた子には渡すなど。
体調不良の場合は、無理をせず申し出やすい環境づくり。微熱でも休む。先生も同じ。
児童・生徒・教職員の感染を確認した場合の対応をルール化。
感染確認したら休校。濃厚接触があった場合も一旦休校。陰性確認後、再開。子供の PCR 検査を早期に実施。
陽性者がでたら、回復に全力で対応していく。従来どおり、感染予防のために休んでも欠席扱いしない。
新型コロナウイルス関係での誹謗中傷が起こらないように。感染したことでいじめが起こってはいけない。
万一、感染者が出た場合は、感染拡大防止対策を徹底して行う。

我々は、新型コロナウイルスを恐れなければならない。その中で、どう社会生活を送るのか。5 月 7 日に民間の店舗・施設、11 日に県有施設、14 日学校、21 日に横について接待をする店と、段階を追い、確認しながら行っていきたい。もちろん、状況に応じた緊急対策は躊躇なく講じる。よろしくお願いします。

プロジェクトM
医療体制を維持することが大事。命を守るのは医療関係者、医療従事者。医療関係のクラスターは、絶対避けなけなければいけない。
病床は 24 床用意していたが、8 人入院患者が出たところで、プロジェクト M をスタート。キャパを拡大していった。無症状者はアパホテル、軽症者は新たに小城や富士で対応してもらっている。現在、13 人が退院、24 人が入院。県外が 2 人、6 人は無症状でアパホテルに。医療機関を維持することが最大の優先課題。幸い死亡者はいない。最悪の場合は、佐賀大学付属病院で対応する。このプロジェクトMは、高い評価を得ている。

福岡県は数字もよくなってきている。この調子で一緒に頑張っていきたい。従来どおり、県境を越えて隣県に行くことは避けてほしい。宣言が、47 都道府県も延長になったのは、県境を意識してのこと。極力、隣県に行くのは避けてほしい。

感染拡大防止には、県民一人ひとりの心がけや行動が重要。緊急事態宣言解除までは、県境を越えての移動を控え、「新しい生活様式」を意識してほしい。外出はマスク着用、3 密を避ける。買い物はキャッスレス決済、自転車通勤、ジョギングは少人数で距離を保つ。公園の利用はすいた時間に、場所を選ぶ。会食での献盃はしない。国は横並びで、会話の少ない会食を勧めている。帰宅後は、まず手や顔を洗う。
苦しい毎日だが、ひとつになって難局を乗り越えていきたい。今後もよろしくお願いします。